「国際車いす専門家協会」の概要

Overviw of "International Society of Wheelchair Professionals (ISWP)"

○ 大鍋寿一（新潟医療福祉大・ピッツバーグ大）　　メアリー・ゴールドバーグ（ピッツバーグ大）
マイケル・アレン（UCP Wheels）、　ジョン・パールマン、ローリー・クーパー　（ピッツバーグ大）

Hisaichi OHNABE, Niigata Univ. of Health and Welfare, Univ. Pittsburgh,　Mary GOLDBERG, Univ. Pittsburgh
Michael ALLEN, UCP Wheels,　Jon PEARLMAN, Univ. Pittsburgh,　Rory COOPER, Univ. Pittsburgh

Abstract: According to the Convention on the Rights of Persons with Disabilities, “States Parties shall take effective measures to ensure personal mobility with the greatest possible independence for persons with disabilities “ International cooperation is declared in the *Convention* Article 32. The 70 million people need a wheelchair. Only 5~15% have access to one in the world. In cooperation with GATE (Global Cooperation on Assistive Health Technology) of WHO, International Wheelchair professional association (ISWP) was established. ISWP Vision is all individuals who can benefit from a wheelchair, have unencumbered access to high quality services & technology. ISWP Mission is to professionalize wheelchair services through advocacy, training, and international coordination. Background, Global Needs of Wheelchair, Objective, Role of Advisory Board and Working Group, Objective, Affiliate, Present ISWP Status, -Funding opportunity, Research, and Educational Resources are described.

Key Words: ISWP, Wheelchair , WHO, USAID, Wheelchair Guide

1. はじめに(Introduction)

1-1 地球規模の背景（Global Background)

「障害者の権利に関する条約」（略称：障害者権利条約 *Convention on the Rights of Persons with Disabilities*）[1)] は 2006 年国連総会において採択され、2015 年 4 月現在の批准国は 154 カ国である。日本の批准は 2014 年 1 月である。この第三十二条には「国際協力」（International cooperation) がうたわれている。

この障害者権利条約はじめ、「障害者の機会均等化に関する基準規則」[2)]、「障害に関する世界報告書」には、支援技術(Assistive Technology (AT))により障害のある人々にすべての主流サービス提供がうたわれている。グローバルな動向は LIFE2014[3)]にも述べられているが、最近では、障害者権利条約の締約国会議の第 8 回セッションは、「障害者の権利を主流化」（Mainstreaming the rights of persons with disabilities)をテーマに、2015 年 6 月 9-11th に国連本部で開催され、重要課題としてアクセシビリティ(accessibility）が取り上げられた。

従って、移動に障害のある人々は車いすのサービスを受け、自立して移動し、QOL (Quality of Life)の向上を行う、すなわち自立した生活を支援することは世界の義務であり、国際協力してそれに対応することが求められている。

WHO では地球規模のニーズに対応するため支援技術（AT）に対し、支援健康技術（Assistive Health Technology (AHT)のパラダイムシフト、Global Cooperation on Assistive Health Technology (GATE)が 2014 年に提案された。その中には特定の支援健康生産品(Assistive Health Product)として手動車いすが取り上げられている。

1-2 車いすの世界的ニーズ（Global Needs of Wheelchair)

世界には人口の約 1 割の 7000 万人の車いす必要者がおりますが、それらの 5000 万人には行き届いていないのが現状である[5)]。このニーズは、今後障害者、高齢者の地球規模での増加に伴い、2050 年に向けさらに増加していくと考えられる。

2 「国際車いす専門家協会」（International Society of Wheelchair Professionals (ISWP)）[4)]

USAID（アメリカ合衆国国際開発庁 United States Agency for International Development）は過去 14 年間車いす分野に係わってきた。その USAID は車いすのサービスを世界的に展開するため、「国際車いす専門家協会」（ISWP）が設立の支援プロジェクトを発表した。ここに WHO の GATE と連携して、米国ピッツバーグ大学を中心に ISWP が設立されたのでその概要を紹介する。

ISWP は車いす使用者は、世界最高のサービスと最高の技術を提供することを使命として 2015 年 1 月に発足し、ISS (International Seating Symposium) 2015 開催時(2015 年 2 月)公表された。組織は世界中で約 70 万人が移動および機能のために車いすを必要とし、まだほとんどがそれらを修理するために、適切な車いすやサービスへのアクセスを欠いているという事実に照らして形成された。

2-1 ビジョン（Vision）/ミッション(Mission)

ビジョン：車いすの使用から利益を得ることが出来るすべての個人 は高い質のサービスや技術にアクセスすることを可能にする。
ミッション：アドボカシ―や研修、国際協力を通して「車いすサービスを専門化」する

2-2 目的（Objective)

ISWP は、5 つの目的がある：

1. 車いす部門を展開し、専門化する。
2. 国際車いす規格を開発し、車いすの提供データを収集し、共有する。
3. 車いす部門内および関連する職能団体と団体間の調整を促進する。
4. 改善し、特に少ない資源不足国では、世界的な車いす

の供給を促進する。
5. 適切な車椅子サービスの認識およびリソースの提唱。

2-3 ISWP 提携機関とプログラム(ISWP Affiliate & Program)
・提携：ISWP ビジョン、ミッションと目的を支持し、助ける 地域パートナーとの提携
・WHO ガイドラインと提携する
・ISPO と調整
・基金の機会
Stage 1: US$20,000(250 万円); Stage 2: US$50,000（625 万円）
・メンバー：ISPO と支部への組織と個人メンバー

2-5 諮問委員会の役割（Role of Advisory Board)
・ISWP に対し戦略方向を供給
・ISWP のビジョン、ミッションや目的の達成を助ける
発議を支援し、リードする

2-6 戦略方向 (Strategic Direction)
ISWP は非政府組織(NGO) と障害者団体(DPO)の発展の支援に焦点をあてる
- あなた方の経験と組織からの見識
- 組織の必要性の明確化
- 目的と活動の優先順位化
- 持続可能に向けての作業

2-7 ワーキング・グループ(Working Group)
a. アドボカシー
b. メンバーシップ＆コーディネーション
c. 規格
現在、車いすに関する規格 ISO 7176 は先進国の環境での使用する車いすを対象とし、その試験方法や装置もそのためのものである。十分な資源のない開発途上国のような車いす使用環境に適応する車いすの規格の開発を行う。
d. 研修

2-8 研究 (Research)
車いす使用者満足度調査（ジンバブエ）
リハビリテーションキャンプ（ルーマニア）
車いす受領の影響ＱＯＬ（インドネシア）
- 断念に伴うサービスの影響（フイリピン＆ケニア）
車いすサービス予測のインパクト
トライサイクル比較（インドネシア）
製品開発
- 手動車いすの電動化適合
- 姿勢保持装置
- 適合オートバイ

2-9 教育資源 (Educational Resources)
・より少ない資源の設定での手動車いすの供給に関するガイドライン(Guidelines on the provision of Manual Wheelchairs in less resourced settings)（WHO, ISPO, USAID）ガイドラインのゴールは車いすへのアクセスを改良することによってより少ない資源の設定で使用者の QOL を高めることである。
・車いすサービストレーニングパッケージ（Wheelchair Service Training Package (WSTP)：
基礎レベル：トレーニングパッケージの主な目的は、車いすのサービス提供に関わる担当者が必要最小限の技術や知識を開発することである。コースは、基礎的なサービス提供の一環として、クッションとシーティングのニーズに関する特定の情報が含まれている。
基礎過程で、ユーザは、彼/彼女のトランクを制御することができ、最小限の姿勢保持を必要とするという仮定がある。英語、タイ語をはじめ７カ国語で出されている。
中級レベル：WSTP中級レベルは基礎レベルで学んだ技術を構築するために設計されている。主な違いは、中級レベルは使用者の姿勢保持ニーズに、より焦点を当てることである。

図１．WHO & USAID 車いす教育資料

マネージャーレベル、ステークホルダーレベル
認識（車椅子サービス提供への評価と技術）を現している開業医に加えて、この知識と認識があることは、マネージャーならびにより幅広い投資家コミュニティのために不可欠である。

2-10 ISWP 現状 (ISWP Status)
-管理
- フルタイムのプロジェクト・マネィジャーの雇用
-連携合意と RFP（提案要求）の原案作成
- International Seating Symposium (ISS)2015 時正式に発表

2-11 研修試験 (Training Test)
a. 基礎テスト：これまでの 77 受験者 – 合格者 63%。37%が不合格（わずかな言葉の壁があった）。受験者の 86%は発展途上国からのものであった。

2-12 データ収集（Data Collection）

３．結論(Conclusion)
ISWP Affiliate への参加は、プロジェクトとの連携遂行を通してすべての車いす使用者の QOL 向上をはじめ関係者（ステークホルダー）に Win-Win の効果が期待でき障害者権利条約の達成につながる。

参考文献
1) http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index_shogaisha.html
2) http://www.who.int/phi/implementation/assistive_technology/phi_gate/en/
3) 大鍋寿一、自立支援工学・支援技術のグローバル・チャレンジの現状と動向、LIFE2014.
4) ISWP 諮問委員会議事録